分布：本州・四国・九州

ヤブツルアズキ　（　マメ　　科）

学名：*Vigna angularis* var. *nipponensis*（ヴィグナ アングラリス ヤポネンシス）

藪蔓小豆　　別名：オマンアズキ

主な生育場所

やや草丈の高い草地や荒れ地，河原，路傍，林縁，休耕田などで，他の植物に絡みついて生育する。よく手入れされた草丈の低い草地にはあまり見られない。

名前の由来：栽培する小豆（アズキ）に似るが，ツル性で，草丈の高い藪などによく生える野生のアズキであることから，藪（やぶ）蔓（つる）アズキ。

特　徴

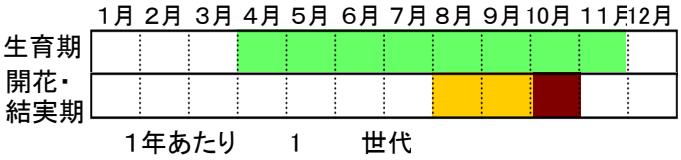
茎が他の植物に絡みつきながら，3m以上にも伸びる1年生のツル植物。茎や葉には粗い長毛がある。葉は3小葉からなり，小葉は狭卵形で浅く3裂する。初秋に葉腋に総状に2-10個の花をつける。花は黄色の蝶形花だが，左右非対称で筒状の花弁は回転するようにねじれる。果実は線形で垂れ下がり，種子は長さ3-5mmほど。

＜農業との関係＞

休耕田や耕作放棄田に生育することはあるが，よく手入れされている畦畔や畑には見られず，畑内で問題となることは少ない。ただ，ダイズ畑などで繁茂して害草化する場合がある。豆果は熟すと弾けて種子を飛ばしやすく，果実が熟す前の防除が重要。

旗弁は左右非対称で筒状の花弁はねじれる

＜生活史＞　　関東 地方の例(目安)



＜類似種＞　日当たりのよい草地に生え，良く似た左右非対称の黄色い花をつけるノアズキの葉には切れ込みがなく，やや菱形に近い。また豆果はヤブツルアズキの線形に対し，ダイズのように幅広い。

細長く伸びる豆果
種子はアズキよりも小さい

＜一言うんちく＞

現在，栽培されているアズキはヤブツルアズキと同じ遺伝的特徴を持つことから，ヤブツルアズキはアズキの祖先種に考えられています。縄文遺跡からは多くの種子が出土し，それらは中国や韓国の遺跡より古いことから，日本起源でヤブツルアズキからアズキが生まれたのかも知れません。

＜人との関わり合い＞

種子は栽培種のアズキと比べるとかなり小さいが，アズキと同様に利用できる。とくに砂糖を入れて煮込むと汁粉や餡になりり，アズキよりも豆の香りがよく美味とされる。古来から，居住地の近くのヤブに生えていたヤブツルアズキの豆を煮込んだときのおいしさを縄文人たちは知っており，栽培化が進んだと容易に想像できる。

＜俳句や短歌への登場＞

【季語：秋】（小豆）　※ヤブツルアズキそのものを詠った句は見当たらないので，以下は「小豆」の句を紹介。

水郷や小豆も草の実の数に　（原　月舟）　　瞬けば小豆こぼるる彼岸かな　（橋石　和栲）

日に弾く小豆の莢のうす煙　（野見山　朱鳥）　つぎ當たる農婦のズボン小豆選る　（富安　風生）

嬉しさや大豆小豆の庭の秋（村上　鬼城）　　瞬けば小豆こぼるる彼岸かな　（橋閒石 和栲）